

一般社団法人日本体力医学会定例理事会（2022年2月）議事録

日 時：2022年2月18日（金）午後5時30分～7時10分

場 所：ZoomによるWeb会議

議 長：鈴木政登理事長

出席者：鈴木政登理事長、

碓井外幸、西平賀昭各副理事長、

武政 徹常務理事、赤間高雄、井福裕俊、

太田 真、大野 誠、栗原 敏、後藤勝正、

小山勝弘、下光輝一、新開省二、須田和裕、

須永美歌子、竹森 重、田中喜代次、

中里浩一、永富良一、成田和穂、浜岡隆文、

前田清司、宮内 卓、和気秀文各理事、

井上 茂、清田 寛、定本朋子各監事、

加藤 公第76回大会長、

小橋 元第77回大会長

欠席者：宮川俊平理事、小林康孝監事

【審議事項】

1. 前回議事録の承認（鈴木理事長）

理事会終了時までに訂正等がなかった場合には、自動的に承認されることにした。

2. 第19回日本学術振興会賞受賞候補者の推薦について（碓井学術委員長）

資料に基づき、日本学術振興会からの第19回日本学術振興会賞受賞候補者の推薦について説明があった。昨年度の体力医学会奨励賞受賞者を日本学術振興会賞受賞候補者として推薦することが提案され、審議の結果、承認された。

3. その他

1) 2023年度日本体力医学会の活動計画について（武政総務委員長）

新型コロナウイルス感染拡大防止のため2020年の第75回国民体育大会が中止され、2023年に延期された。しかし、第75回日本体力医学会大会はオンライン方式で開催されたことが報告された。第75回学会大会は既に終了しているが、2023年には役員改選があり、評議員会兼社員総会の開催は必須であるため、社員総会等を含め1日間だけのシンポジウム形式の学術集会の開催が提案された。これに対する種々の意見がでたが、開催までの期間が短く、予算の制限があるため、執行部提案の“シンポジウムを中心とした学術集会”の開催が承認され、理事長より早急に実行委員会を設置する旨、報告された。

2) 第78回日本体力医学会大会（佐賀）大会長候補者推薦について（武政総務委員長）

資料に基づき、佐賀大学教育学部学校教育課程教授の松山郁夫氏が第78回日本体力医学会大会（佐賀）の大会長に推薦され、審議の結果、承認された。

【報告事項】

1. 各種委員会報告

1) 編集委員会（後藤編集委員長）

資料に基づき、「JPFMSM」誌、「体力科学」誌の投稿・

掲載状況が報告された。

1. 「JPFMSM」誌、「体力科学」誌の投稿・掲載状況<投稿状況>（2021年9月1日～2022年1月31日）

「JPFMSM」誌：新規投稿34編

（内海外5編、特集号6編含む）

1/31現在、審査中9編

※前年同期間：新規投稿21編（内海外2編）

「体力科学」誌：新規投稿27編（特集号5編含む）

1/31現在、審査中13編

※前年同期間：新規投稿17編

<発行予定>

「JPFMSM」誌

○Vol. 11, No. 2（2022年3月25日発行）

Regular Article 7編

○Vol. 11, No. 3（2022年5月25日発行）

【特集号】Review 2編、Short Review 3編、

Regular Article 2編

○Vol. 11, No. 4（2022年7月25日発行）

Regular Article 3編、

Short Communication 1編+（今後の受理論文）

「体力科学」誌

○Vol. 71, No. 2（2022年4月1日発行）

【特集号】総説5編

○Vol. 71, No. 3（2022年6月1日発行）

原著6編

○Vol. 71, No. 4（2022年8月1日発行）

原著1編+（今後の受理論文）

2. 掲載取り下げについて（2021年12月21日）

投稿受付番号 [JPFMSM-2021-049] で12/16のAccept後に12/20中国の著者より「掲載取り下げ」のメールがあり、取り下げを受理した。

2) スポーツ医学研修会委員会

（中里スポーツ医学研修会委員長）

現在の新型コロナウイルス感染拡大状況を鑑み、2022年度のスポーツ医学研修会を中止することが決定された旨、報告があった。

3) 渉外委員会（永富渉外委員長）

資料に基づき、国内外学会との交流シンポジウム企画について、進捗状況が報告された。

2. 第76回（三重）大会の報告（加藤第76回大会長）

資料に基づき、第76回（三重）大会の決算報告と、公認会計士による監査が終了していることが報告された。

3. 第77回（栃木）大会の進捗状況（小橋第77回大会長）

資料に基づき、大会の準備状況について報告された。

会 期：2022年9月21日（水）～23日（金）

会 場：栃木県総合文化センター

4. その他

1) 会費自動引き落としについて（事務局）

昨年9月の定例理事会及び総会で承認された、会費の自動引き落としシステムの導入について、事務局より進捗状況と費用の説明があった。

2) 日本医学会発行の医学用語辞典電子版の利用について(事務局)

2月8日開催の日本医学会医学用語委員会(鈴木理事長出席)で報告された、医学用語辞典電子版の

利用について説明があった。この医学用語辞典web版の情報は、2012年2月2日に学会ホームページに掲載していたが、再度、トップページの新着情報欄に掲載することが報告された。

公益財団法人 明治安田厚生事業団 第38回 若手研究者のための健康科学研究助成

研究テーマ ※いずれか1件のみ応募可

- a. 指定課題：健康増進のための実装研究
エビデンスに基づく健康増進策を社会に普及・定着させる方法の開発とその評価を行う「社会実装型」の研究
- b. 一般課題：健康増進に寄与する学術研究

助成の金額

総額1,500万円

- a. 指定課題(1件以内)：1件につき300万円
b. 一般課題(12件以内)：1件につき100万円

助成期間

2年間

応募資格

- ・健康科学研究に従事し、修士以上の学位を有する方(医学・歯学の学士などを含む)
- ・指定課題は50歳未満、一般課題は40歳未満(いずれも2022年6月1日時点…申請開始時点)かつ所属長または指導教官の推薦を受けた方
- ・当該研究助成の既受贈者は除く(第37回までの受贈者は応募不可)

応募締切

2022年8月25日(木) 必着

主催 公益財団法人 明治安田厚生事業団

後援 日本体力医学会
明治安田生命保険相互会社

選考委員

委員長 井澤鉄也(同志社大学大学院スポーツ健康科学研究科教授)

a. 指定課題

委員：荒尾 孝(公益財団法人明治安田厚生事業団体力医学研究所名誉所長)

委員：小熊祐子(慶應義塾大学スポーツ医学研究センター准教授)

委員：川上憲人(東京大学大学院医学系研究科客員研究員)

委員：島津太一(国立がん研究センターがん対策研究所行動科学研究部室長)

委員：中村陽一(立教大学21世紀社会デザイン研究科・法学部前教授)

b. 一般課題

委員：井澤鉄也(同志社大学大学院スポーツ健康科学研究科教授)

委員：井上 茂(東京医科大学公衆衛生学分野主任教授)

委員：北 一郎(東京都立大学人間健康科学研究科教授)

委員：永松俊哉(山野美容芸術短期大学美容総合学科教授)

委員：村岡慈歩(明星大学教育学部教授)

(敬称略・五十音順)

●**応募方法**：

申請書を研究助成ホームページからダウンロードして作成してください

作成した「申請者情報ファイル(エクセル形式)」と「研究計画ファイル(ワード形式)」を事務局宛にメールでお送りください

※パスワードが設定されたファイルや圧縮されたファイルは受理できません

●**申請書ダウンロード**：

URL: <https://www.my-zaidan.or.jp/josei/entry/>

●**申請書送付**：

E-mail: josei@my-zaidan.or.jp

●**お問合せ**：

公益財団法人 明治安田厚生事業団体力医学研究所 研究助成事務局

〒192-0001 東京都八王子市戸吹町150

TEL 042-691-1163 FAX 042-691-5559

第45回（2023年度）公益財団法人 石本記念デサントスポーツ科学振興財団学術研究募集

主催：公益財団法人 石本記念デサントスポーツ科学振興財団
THE DESCENTE AND ISHIMOTO MEMORIAL FOUNDATION FOR THE PROMOTION OF SPORTS SCIENCE

応募資格：

- ①体育学，健康科学，人間工学，被服科学，運動施設工学等健康の増進と体力の向上に関わる学術，およびその他スポーツ振興に寄与する学術研究に関する講座を持った大学，およびこれに準ずる研究機関に所属する個人またはグループ。
- ②高校生から幼児までの教育機関に奉職しており，①に前述した分野で研究または調査活動を積極的に行っている個人またはグループ。
この場合，運動生理学的研究でなくとも，あくまで教育現場に於ける身近なテーマで，すぐにも役立つ研究テーマを求めている。
但し，研究報告等に不慣れな人は，報告書作成に習熟した人を共同研究者に加えて申請のこと。
- ③eAPRINなどの研究倫理教育を修了していること。

学術研究テーマ：

第一部 課題学術研究

本年度テーマ

- ①「暑熱環境下における運動パフォーマンスサポートまたは快適性を実現するウェア，用品に関する研究」
年々過酷さを増す夏の環境下において，スポーツウェア，用品における暑熱環境下での運動パフォーマンスサポートまたは快適性を実現する幅広い視点からの提言を頂きたい。
- ②「運動時におけるウェアの快適性実現の手法，あるいは快適性を定量化する新たな手法や指標に関する研究」
運動前，運動中，運動後において，また外部環境により衣服内の環境は温度，湿度，発汗などにより大きく変化する。スポーツウェアの快適性を幅広い領域に対して実現する手法，ならびに快適性に寄与する機能性の新たな定量手法や指標に関する提言を頂きたい。
- ③「運動時のウェアの快適性と皮膚感覚に関する研究」
皮膚感覚には触覚，圧覚，温覚，冷覚，痛覚などが存在するが，より快適なウェアを設計するために，運動時に衣服が着用者に与える物理的な感覚による影響やそのメカニズムを把握する必要がある。
運動時に衣服が与える皮膚感覚に関する基礎的な研究として，例えば環境による違いや身体上の部位差，性差，年齢差など，運動時の快適なウェア設計のための基礎となる情報を提示いただきたい。
- ④「ウェアによる身体の動かしやすさへの影響に関する研究」
アスリートがパフォーマンスを最大限発揮するため，あるいは一般の方がより快適に運動するために，身体の動かしやすさは必要不可欠であるが，動かしやすさを定量的に評価した研究事例は少なく，その要素も明らかになっていない。

身体の動かしやすさを評価する方法の提案，衣服圧や生地との摩擦抵抗との関連性など，様々な視点から動かしやすさに関する提言をいただきたい。

第二部 自由課題学術研究

本財団の主旨に添ったものであり，申請者がこれまで行って来た研究を助成することによって，調査・研究の発展・充実が期待されるものであること。

応募方法：

本年度の公募締切日は2022年8月5日です。

応募者は，所定の申請書に研究テーマ，分野区分の①～④ A～I，目的，内容および期待される成果等を簡潔に書き，2022年8月5日までに書面にて下記宛提出すること。

（申請書は所定用紙または当財団ホームページよりダウンロードし，A4サイズに出力して提出すること。自作や45回申請書以前の用紙の使用は認めない）

応募書類 送付先・資料の請求および問い合わせ：

〒567-0086 大阪府茨木市彩都やまぶき2-3-2

デサントジャパン(株)DISC OSAKA内

公益財団法人 石本記念デサントスポーツ

科学振興財団 編集局

TEL 080-4027-4058 FAX 080-1499-1719

ホームページアドレス <http://www.descente.co.jp/ishimoto/>

E-mail zaidan@descente.co.jp

助成者の入選内定通知：

研究助成の対象として採択された研究者に対し，当財団より書面にて本人宛通知する。

（2022年11月下旬の予定）

なお，入選されなかった方には，12月下旬までに本人宛通知する。

助成金の交付：

第一部「課題学術研究」

入選100万円（研究期間別途設定，件数2～4件）を予定

第二部「自由課題学術研究」

最優秀入選100万円（2～3件），

優秀入選50万円（17～18件）合計20件を予定

受賞者は，2023年2月に贈呈式にて発表し，助成金は，

3月31日までに交付する。

なお，研究助成は個人またはグループを対象とし，所属機関の間接経費，一般管理費は助成の対象にしない。

報告書の提出：

選考の結果，助成金の交付を受けた者は，所定の様式で原稿用紙550字詰22枚前後（図表類を含む）の研究成果報告書（Abstractを含む）を下記期日までに当財団に提出すること。提出された報告書は，当財団の学術委員が査読を行ない，その結果再考・検討を依頼することがある。

第一部 研究期間により別途設定（研究期間が複数年となった場合には，A4サイズ2枚程度の間報告書を提出）

第二部 2023年6月30日

また，同時に研究助成金使途報告書を提出すること。

詳細は入選者に別途通知する。

その他の詳細については，当財団ホームページで確認のこと。

編 集 後 記

最近、私の周辺で論文の読み書きにAI自動翻訳を利用している同僚をみかけるようになった。忙しい病院業務の傍ら、情報をなるべく早くアップデートするために、補助的に使っているようだ。私が大学院生のころにも、そういった翻訳ソフトやAI翻訳のはしりのようなものはあったが、不自然な翻訳が多く、有用とは言えない印象であった。しかし、近年ではgoogleによるAI翻訳や、もっと高精度のものであれば、みらい翻訳 (<https://miraitranslate.com/>)、DeepL (<https://www.deepl.com/ja/translator>)、といったものがある。これらを勧められるがまま使ってみると、論文執筆に耐えうる、とまではいえないが、以前とは比べ物にならないほど自然な翻訳がされるようになってきた印象である。これらに触れた当初は、「自分が若いうちにこういうものがあつたらもっと論文がはかどつたらあいな」と思ったが、実際にそれを使用している後輩を見ていると、そうでもないようだ。それは、いざ彼が書いた論文を共著者として校閲すると、論理的な文章になっていなかったからである（その同僚はその後数度やり取りし投稿後、無事acceptされた）。これはつまり、当たり前といえば当たり前だが、「英語ができれば論文が書ける」というわけではないからだ。

私が編集担当をした論文の査読結果の記録を見返す

と、せっかく投稿いただいたが査読結果が芳しくない論文は、そのほとんどが背景から目的に至る文章で、なんらかの矛盾、無理が生じているため、その点を査読者に指摘されていることが多いように感じた。そのため、自分が後輩などに論文を指導するとき、英語に気を取られず、論理的な文章が書けているかを常に心がけるべきである、という基本的なことを改めて考えさせられた。英語での執筆が不得意であれば、まずは「体力科学」を利用していただいてもいいかもしれない。また、そういった論文を読んでいると、本当に共著者に校閲してもらっているのだろうか？と思うこともしばしばある。共著者はもっとも身近な査読者であるので、これを利用しない手はないし、内容が分かっているのであれば共著者として名前を連ねるべきではないはずだ。

とはいえ、雑誌ごとに投稿にあたってのハードルは異なるであろう。まずは、体力科学やJPFMSMではどういふところが査読で指摘されやすいかを調査し、それを報告することができれば、学会員の論文執筆に役立つかもしれない、と個人的には考えている。

宇高 潤

The Japanese Journal of Physical Fitness and Sports Medicine Vol.71, No.4

体 力 科 学 第71巻第4号

令和4年7月25日 印刷
令和4年8月1日 発行

編集兼発行者
発行所

編集事務局

印刷所

後藤 勝 正
一般社団法人日本体力医学会
〒112-0012 東京都文京区大塚5-3-13
ユニゾ小石川アーバンビル4階 学会支援機構内
TEL: 03-5981-6015 FAX: 03-5981-6012
E-mail: jspfsm@asas-mail.jp
〒997-0854 山形県鶴岡市大淀川字洞合1-1
鶴岡印刷株式会社内
TEL: 0235-22-3120 FAX: 0235-22-3120
E-mail: hj-tairyoku@turuin.co.jp
〒997-0854 山形県鶴岡市大淀川字洞合1-1
鶴岡印刷株式会社
